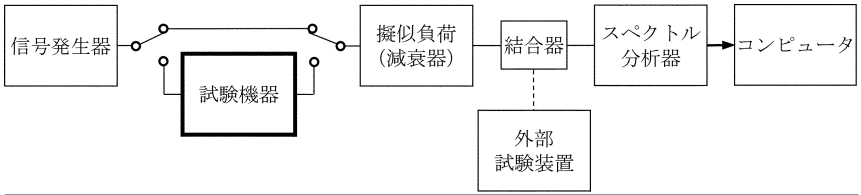
八　隣接チャネル漏えい電力（増幅度特性）

1　測定系統図



2　測定器の条件等

⑴　信号発生器は、次のように設定する。

ア　周波数　　測定操作手順に示す周波数

イ　試験信号　　無変調の連続波

ウ　出力レベル　　試験機器が最大利得状態で最大出力となる入力レベルと同一のレベル

⑵　スペクトル分析器は、次のように設定する。

ア　中心周波数　　測定操作手順に示す周波数

イ　掃引周波数幅　　０Hz以上10MHz以下

ウ　分解能帯域幅　　100kHz以上１MHz以下

エ　ビデオ帯域幅　　分解能帯域幅の３倍程度

オ　Ｙ軸スケール　　10dB／Div

カ　入力レベル　　最大のダイナミックレンジとなる値

キ　データ点数　　測定精度が保証される点数

ク　掃引時間　　測定精度が保証される時間

ケ　掃引モード　　連続掃引

コ　検波モード　　ポジティブピーク

サ　表示モード　　マックスホールド

3　試験機器の状態

⑴　測定に必要な場合は、外部試験装置から試験機器に試験信号を加える。

⑵　最大利得状態及び最大出力に設定する。

⑶　複数の空中線端子を有する場合は、空中線端子ごとに空中線電力が最大となる状態に設定するほか、全空中線端子における空中線電力の総和が最大となる状態に設定する。

4　測定操作手順

⑴　信号発生器の周波数を離調周波数に設定し、２⑴で規定する出力レベルで無変調の連続波を送信する。

⑵　スペクトル分析器の設定を２⑵とし、中心周波数を離調周波数に設定する。

⑶　信号発生器から試験機器の入力端子に入力する試験信号の入力電力（P_{IN}）をデシベル単位で測定する。

⑷　試験機器の入力端子に信号発生器の試験信号を入力する。

⑸　スペクトル分析器を掃引し、試験機器の出力端子から出力される出力電力（P_{OUT}）をデシベル単位で測定する。

⑹　当該離調周波数における帯域外利得（$=P_{OUT}-P_{IN}$）を計算する。